

「公共交通教室」の取り組み



平成24年4月13日
中国運輸局 山口運輸支局

みんなが利用したくなる生活交通推進会議

(平成19年11月22日設立)

【推進会議の構成メンバー】

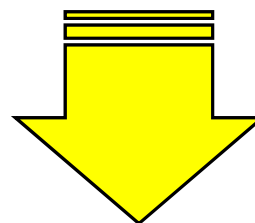
- ・学識経験者(議長)・県内交通事業者・利用者代表・山口県バス協会(事務局)・山口県(事務局)
- ・県内各自治体・山口県警察・商工会議所連合会・山口運輸支局(幹事長) 他

【主な事業】



推進会議のキャラクター「えこみん」

- (1) 生活交通の利用者の増加を図るための意識啓発活動(ホームページ制作、シンポジウムの開催、キャンペーンイベントの実施等)
- (2) 生活交通の利用促進のための協働研究
- (3) 生活交通の活性化のために必要な事業



【活性化プロジェクト】



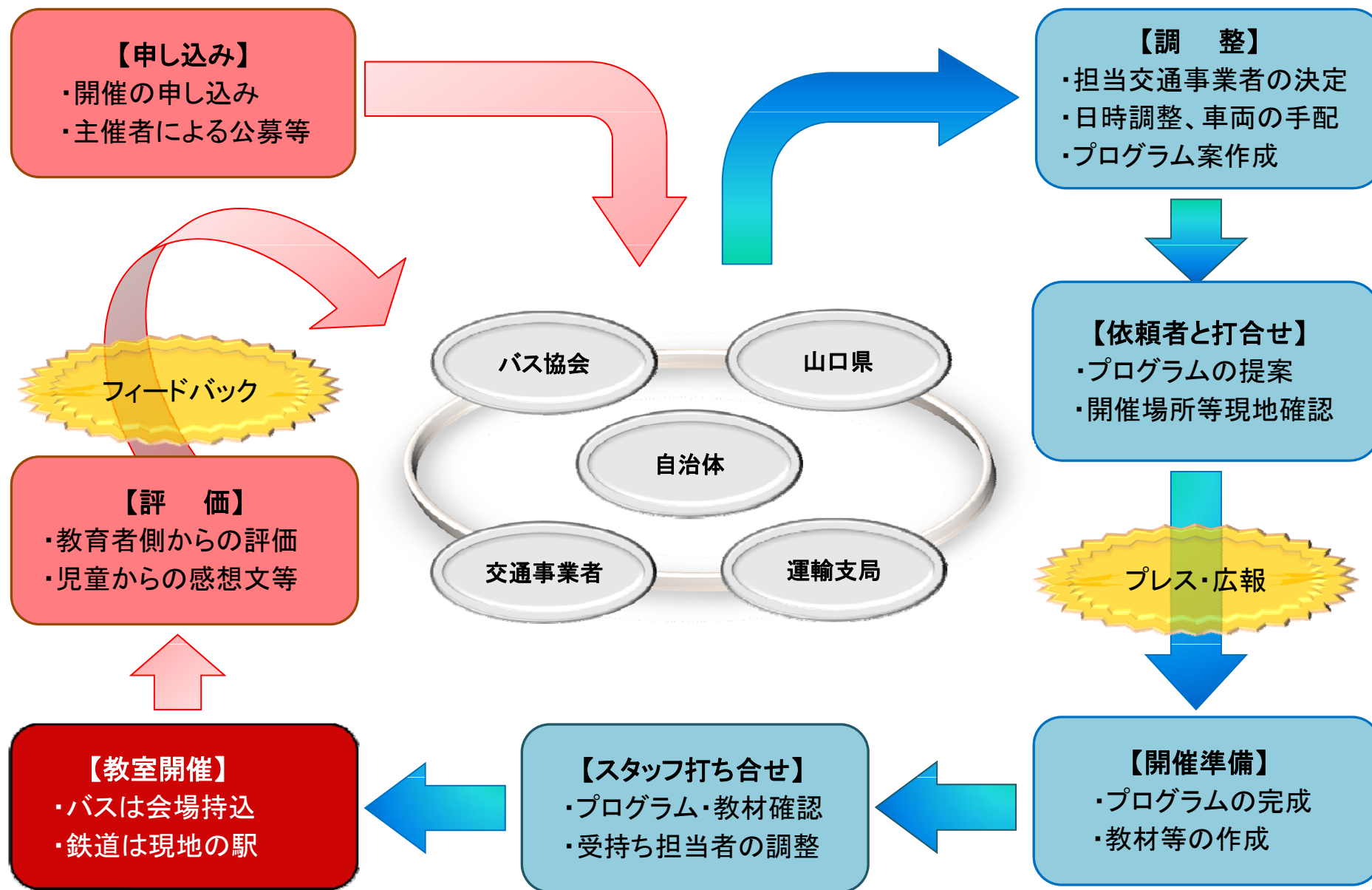
国土交通省

- ◆「教室開催マニュアル」作成
- ※山口運輸支局では、平成20年度公共交通活性化総合プログラムを活用して公共交通教室開催のあり方を検討

【平成21年度より公共交通教室の県内展開】 ※遠足等の路線バス利用運賃以外は無料奉仕！

- ◆小学校の授業(生活科)や遠足、児童サークル活動にて
再生総合事業活用自治体を中心に、教育現場においてバスや鉄道モードによる教室開催を推進
- ◆県内各種イベント会場にて
公共交通への意識向上を図るため、バスや鉄道などの公共交通イベントや産業祭等などで開催

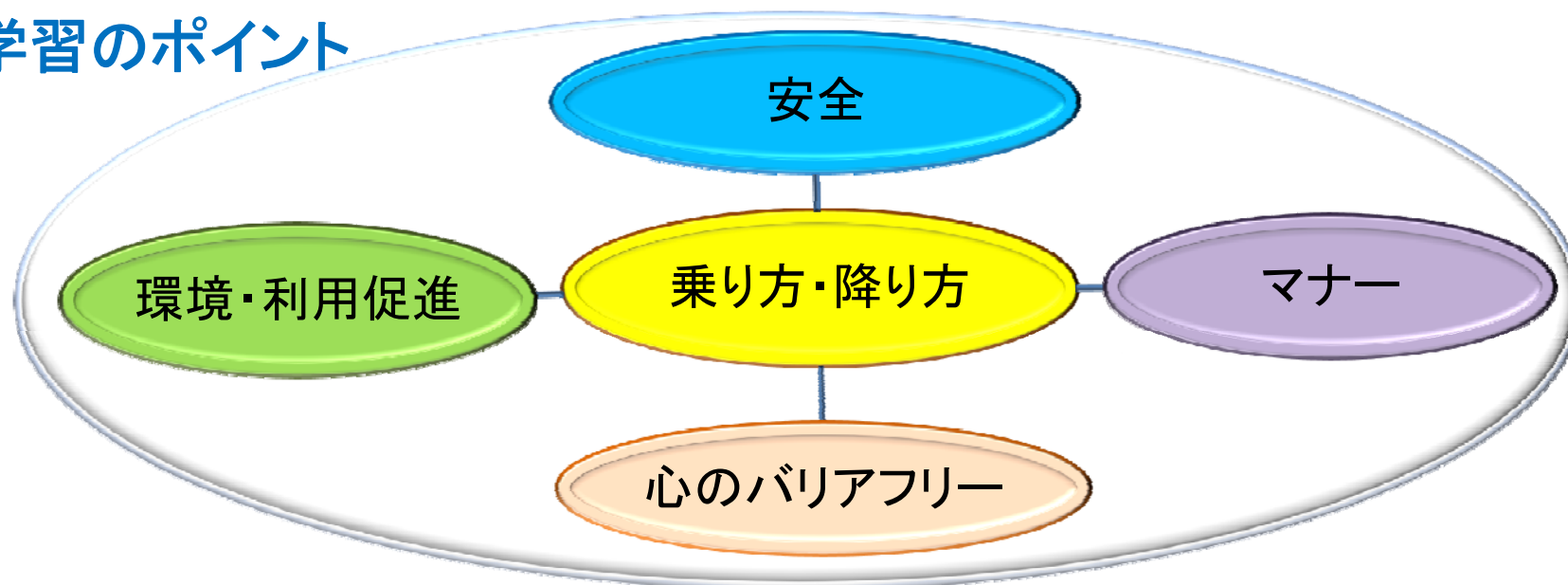
■公共交通教室開催の流れ(基本)



■ 公共交通教室の学習プログラム例



■ 学習のポイント



■ 学習のステップ (約1時間のカリキュラム)



- ◆紙芝居方式のクイズ
- ◆安全について講義と実演
- ◆バリアフリーの講義と実演
- ◆乗降方法の講義と実演

- ◆乗車から支払・降車まで
- ◆安全確認の徹底
- ◆車椅子・視覚障がい疑似体験、介助体験 等

- ◆実体験走行(模擬体験)
- ◆定時路線バスに乗車
- ◆心のバリアフリー実践
- ◆安全・マナー指導 等

■ 公共交通教室開催実績の推移



【傾向】

- ◆教育現場への定着とリピート開催（定例行事化）
- ◆地域振興イベントにおけるブース設置の依頼
- ◆教室終了後に利用実践（遠足やキャンプ等へ：要運賃）

【効果】

教室終了後における利用実績
（年間延べ300人以上）

H23年度

開催：19会場
参加：延べ1,900人
（内小学校は9校）

H22年度

開催：16会場
参加：延べ900人

H21年度

開催：7会場
参加：延べ300人

H20年度

マニュアルづくり

【課題】

開催依頼増加に対する
スケジュール等確保

【増加の要因】

- ◆教育関係者からの理解と評価
- ◆マスメディアによる報道とPR効果
- ◆イベント来訪者の増加や口コミによる開催依頼 等

参考 ■ 公共交通教室の開催事例 1

(一般小学校低学年児童)



紙芝居方式のクイズで学習



安全な乗降方法の実演指導



車椅子乗降体験



全員が乗降練習(安全指導含む)



教室終了後、バス停に移動



定時路線バスで遠足に出発

【小学校低学年のバス教室】毎年開催

- ◆ 新入生児童の大半は、路線バスに乗った経験が無いという事実
- ◆ バス教室終了後は、学習効果を実践すべく校庭等での体験走行、あるいは、遠足行事の場合には、最寄りのバス停から定時路線バスに乗車（定時便＋続行便で対応）

参考 ■ 公共交通教室の開催事例 2

(特別支援学校児童)



クイズ方式で5つの約束



車外マイクの使い方



繰り返し乗降体験



降車時の安全指導



体験走行での立ち席練習



5つの約束の復習

【児童の自立支援のためのバス教室】毎年開催

- ◆ 中学校へはバス通学となるため、6年生児童は定期乗車券の利用方法も学習
- ◆ 乗降方法と安全・マナーを中心としたメニューを繰り返し学習した後、体験走行を実施
- ◆ 後日、児童と先生は実際に路線バスに乗車して校外活動を実施（定時路線バスを利用）

参考 ■公共交通教室の開催事例 3

(留守家庭児童サークル)



安全・マナー・バリアフリーを学習



バスの乗り方の説明・練習



車椅子乗降体験



視覚障がい疑似体験・介助体験



バスと記念撮影



教室終了後、路線バスに乗りキャンプ地へ

【夏休みのサークル活動としてのバス教室】毎年開催

- ◆教室終了後、最寄りのバス停から路線バスでキャンプ地まで移動（定時便＋続行便で対応）
- ◆翌日の復路も同様に路線バスで移動（定時便＋続行便で対応）

参考 ■ 公共交通教室の開催事例 4

(各種イベント)

バスイベント（やまぐちバス博他）



「やまぐちバス博」での教室



「文化産業祭」での教室



クイズイベントで賑わう車内



イベントでのバリアフリー体験

鉄道イベント（こども鉄道員）



車両の中でのマナー学習



駅階段での「心のバリアフリー」体験

【イベント会場での公共交通教室】毎年開催

- ◆ 幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象に開催（誰もが楽しく学べる教材の開発）
- ◆ 多くの人出が見込まれることから公共交通への理解や利用促進PRには絶好の機会

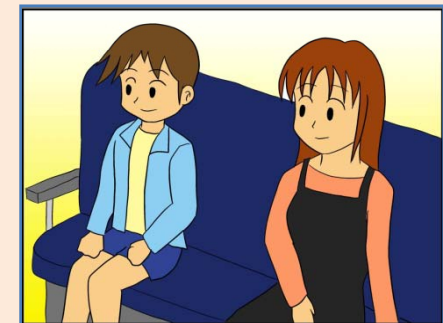
★出題クイズの一例



Q: バスからおりるときはどうする？



Q: バスがなくなるとどうなるの？



Q: もうすぐとうちゃくです。どうする？

◆ 分かり易い教材(写真やマンガ絵)を使用することで、こどもたちは注目します。

いちる? のちる? 「ろせん/ズ」



いわくにバス



2010 作製
みんなが利用したくなる生活交通指



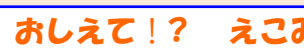
うべしえいバツ



サンデンこうつう



ブルーラインこう



- ・みんながろせんバスにのらない
 - ・バスがいしゃは、バスをはしらせ
 - ・バスがなくなると、クルマのうんになるよ。
 - ・バスがなくなると、どうろをはし
 - ・バスがきたけど、いきたいところ
 - ・バスのいりぐちにあるマイクで、
 - ・バスにのったけど、1000えん
 - ・うんでんせきのよこの「りょうが
 - ・せいりけんにかいてあるばんご
 - ・うちんをはらうときに、どこか
 - ・バスのまえのうんちんしょうじき
 - ・こどもはうんちんしょうじきに

※小学校低学年用として作成した
ものですが、高齢者からも人気です。

ご静聴ありがとうございました

Fin



推進会議が取り組む県下最大のバスイベント「第4回バス博」の様様

この取り組みについてのお問い合わせは、以下までお気軽にどうぞ！

中国運輸局 山口運輸支局 企画担当



TEL:083-922-5335

FAX:083-923-1036

<http://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/>

中国運輸局は「頼りにされる運輸局、必要される運輸局」を目指しています。



山口運輸支局では、この活動を山口県教育委員会のホームページ「やまぐち教育応援団」に登録し、学校教育や子どもたちの自立を支援しています。

<http://shien.ysn21.jp/ouendan/detail.php?member=131>

みんなが利用したくなる生活交通推進会議



<http://www.y-kotsu.jp/index.asp>

[事務局] 山口県地域振興部観光交流局交通政策課

TEL:083-933-3120

FAX:083-933-2527

[事務局] 社団法人 山口県バス協会

TEL:083-922-5031

FAX:083-925-8242